



在りし日の鈴木善幸先生（平成10年8月に行われた漁港検診）



佐藤忠暉議員

教育行政

善幸記念館の建立を

財源がなく難しい

質問 昨年の七月十九日、

第七十代首相、元内閣総理大臣鈴木善幸先生が死去された。岩手県の生んだ五人目の総理で、和の政治を掲げ、至誠ひとすじを貫いた宰相であった。町民はおしなべてこの偉大な英雄に「善幸さん、善幸さん」と親しみを込めて声に出し、尊敬と誇りを感じながら日々生きてきたことだろう。

三陸の水産振興、港湾整備に力を入れ、新幹線や高速自動車道路など、東北の社会資本の拡充にその生涯をかけたことは誰もご存知の通りである。

無私の先人の一人である政治家・鈴木善幸先生の理念と行動を回顧する場として、あるいは、末永くその人となりや実績を勉強する場として、善幸記念館の建立を計画してどうかと考えるが、見解を問う。

沼崎町長 記念館建設のためには土地の確保や建物

町の考えを聞く

教育行政

絵本「いのちのまつり」の引用を 道徳でそういう教育も

の建設など多くの財源が必要であり、施設を運営するためには人件費や維持費も必要になってくるが、現在

の町の財政は厳しい運営を余儀なくされており、新たに財源を確保することは極めて難しい状況である。

質問

「生きる力をはぐくむ」というその目標達成のため、総合学習は一定の効果があると思うが、子どもたちに命の尊さを理解してもらおうのは、並大抵のことではないようだ。

こどもが「命はなぜ大切なの？」「なぜ、私は生きていくの？」「生きるってどういうこと？」「なぜ私は生きなければいけないの？」「私は死んでも、また生き返るのでしょうか？」などの問いかけに、うまく答えら

れない親が多いときく。

そこで「あなたの命は、こういうことなんだよ」と、子どもに理解してもらっための絵本「いのちのまつり」を引用してどうか。

松尾教育長 自分が生まれてきた時の親の気持ち、家族の気持ちを、道徳の時間に親たちに書いてもらい、それを子どもたちに読んで聞かせると、こどもたちの感動はものすごく大きなものである。そういう教育も行わなければいけない。